ドイツでの環境への取り組みと現状

環境先進国と言われる理由と
私たちが学べること

DEXTE－K

ＩＮＤＥＸ

- はじめに
- ドイツの環境における地理的・歴史的背景
- ドイツ行政の取り組みについて
- BUNDついて
- NABUについて
- 民間組織の取り組み
- 街中の様子

（フランクフルト近郊都市：マインツ）

- まとめ

（日本における環境保全への取り組みへのヒント）

（図はWikipediaから引用編集）

はじめに

- なぜドイツへ環境研修に行けたのか？

意外と知られていない
都心の大自然と漂流ゴミの
問題について情報UP！

葛西海浜公園：西なぎさで
　漂流ゴミのクリーンアップ活動（環境保全活動）の主宰

【後援】
- 葛西臨海公園サービスセンター
- えどがわエコセンター
- 荒川クリーンエイドフォーラム
- 東渚･鳥類園友の会有志

【助成金提供】

セブン-イレブンみどりの基金
一般財団法人セブン-イレブン記念財団

海外研修制度があるよ！

DEXTE－K

（写真はセブン－イレブン記念財団WEBより引用）

西なぎさってどんなところ？

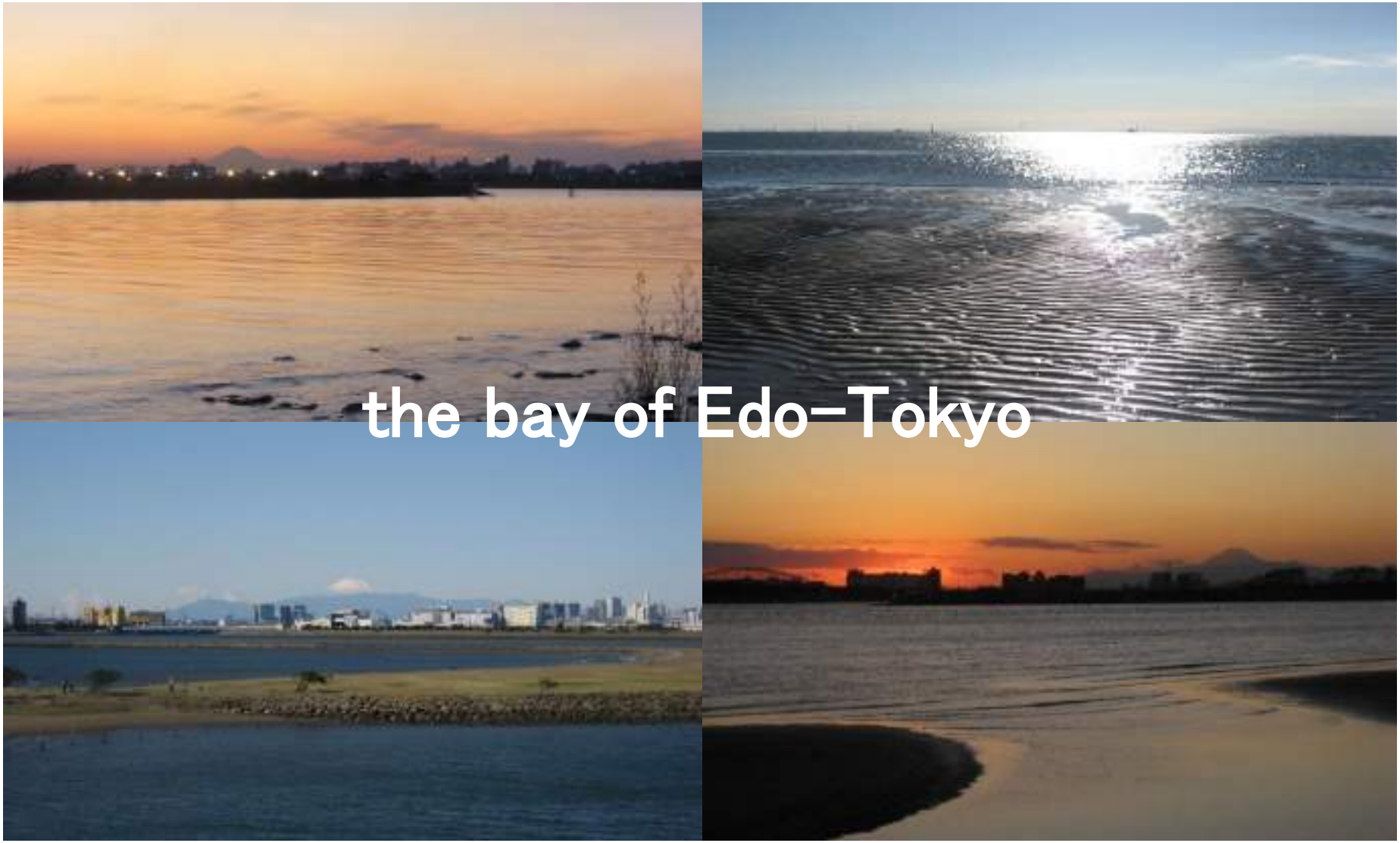
- 葛西の海は、江戸前の海苔(浅草海苔)の産地
- ３kmに及ぶ三枚州と言われる干潟が広がっていた。
- 1960~70年代：ゴミ処理施設と工業地帯の必要性から、ほとんどの臨海地区が埋め立てられた。
- 1970年中盤：臨海地区の再開発が見直された。
  →葛西臨海公園造成計画
- 1980年～90年：葛西臨海公園の整備が一段落
- 2010年：葛西臨海公園が開園し、約20年が経過。
  →自然回帰が目覚ましく、都心で生物多様性を実感可能
  一方で、大きな川に(荒川＆旧江戸川)挟まれ、
  「漂流ゴミ」が絶えない。

西なぎさってどんなところ？

西なぎさ：市民の憩いの場
東なぎさ：バードサンクチュアリー

（図はGoogleから引用編集）

西なぎさの美景



生物多様性

DEXTE－K

漂着ゴミ

DEXTE－K

西なぎさ発:東京里海エイド　活動状況

環境における地理的・歴史的背景

- なぜドイツが環境先進国と言われているのか？

【地理的背景】

１）隣国に接している数が欧州で最大（９カ国）

２）父なるライン川→６カ国を横断

（ドイツ内での河川流域面積が最も大きい）

【歴史的背景】

１）1970年夏：化学工場火災でライン川の魚が大量死。

→他国・他地域への影響：何とかしないと！

２） 1986年：旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所事故

→市民運動の発端：国内の原発建設反対運動の成果

３） 1989年の「ベルリンの壁の崩壊」

→ピクニック事件：市民の意志で東西国家の統一へ

環境における地理的・歴史的背景

【文化的背景】

１）キリスト教文化

（ｉ）教会建築：組石構造で大空間の構築

→時間とお金がかかる

（ii）隣人愛の教え

→貧しい者への救いの手

寄付の習慣と
次世代への引き継ぎ

２）大陸文化：必然として存在する他民族との戦いと協調

→スポーツ：サッカー人気 ―― 地域単位の仲間意識

- 市民で力を結束すれば社会問題は解決できる！

→市民運動の活性化

→ＮＰＯの成長と行政による市民運動支援

ドイツでの滞在＆訪問都市

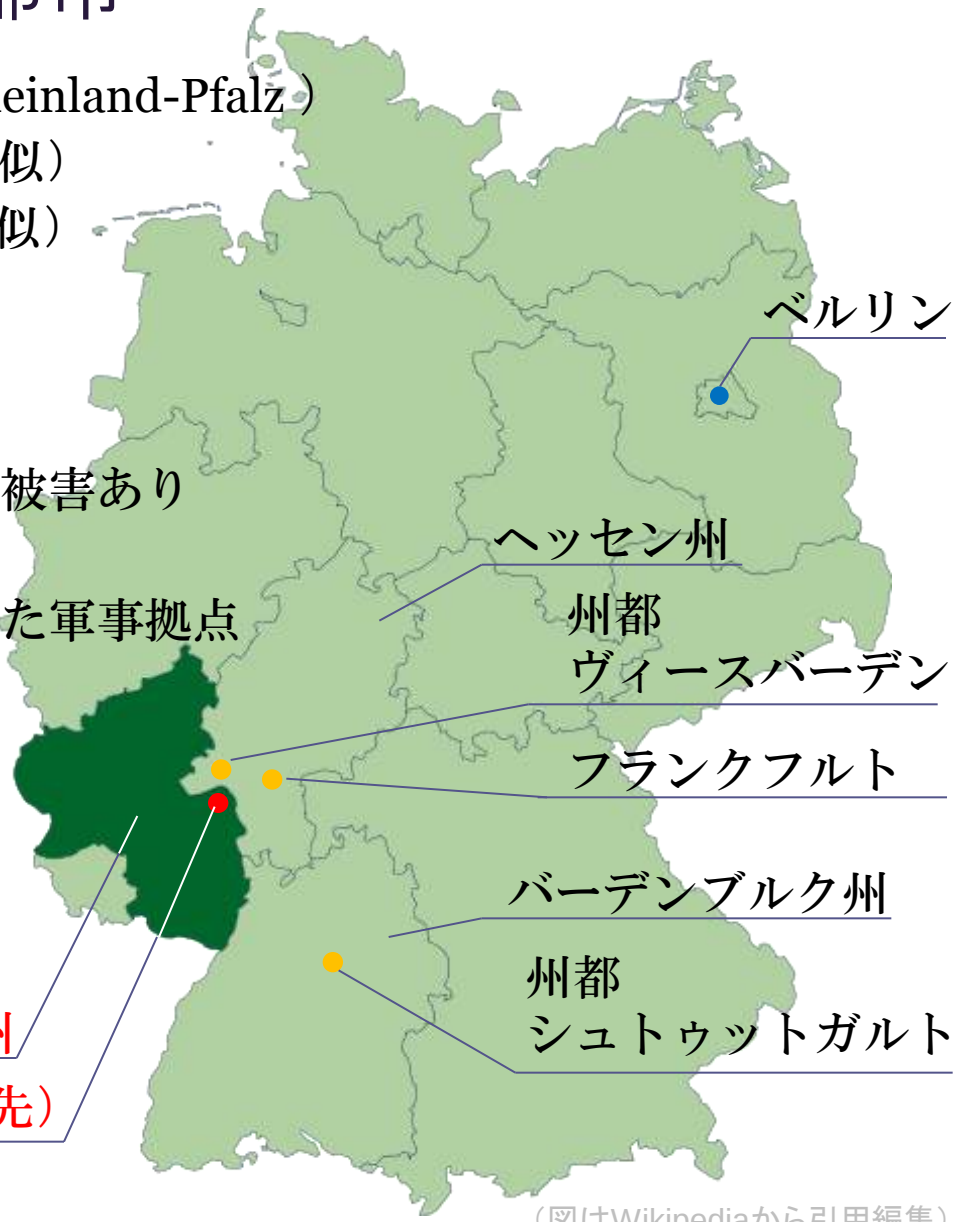
■ラインラント・ファルツ州（ Land Rheinland-Pfalz ）

- 面積：１９,８４９km²　（岩手県と近似）
- 人口：３９０万人　（静岡県と近似）

■州都：マインツ（Mainz）

- 地勢
  マイン川とライン川の合流点に位置
  →河川交通の要の都市、歴史的な洪水被害あり
- 歴史
  紀元前１世紀後半　ローマ帝国が築いた軍事拠点
  活版印刷を発明した
  ヨハネス・グーテンベルクの生誕地

ロマネスク様式の
マインツ大聖堂



（図はWikipediaから引用編集）

ドイツ海外研修訪問先

- 行政関連施設
  1）ラインラント・ファルツ州　州環境情報センター
  2）ラインラント・ファルツ州　自然環境財団
  3）ヘッセン州　環境省
  4）ヘッセン州　環境ボランティア運営事務局
  　　パルメンガルテン植物園

- ＮＰＯ関連活動拠点
  1）ＢＵＮＤ　バーデンブルク州支部
  2）ＮＡＢＵ　ラインラント・ファルツ州　州支部
  3）ＮＡＢＵ　ラインナウアー自然保護センター
  4）ＮＡＢＵ　ラインヘッセン地域地区活動
  5）ＮＡＢＵ　ヘッセン州支部　自然保護センター

- 民間企業・民間施設
  1）ファンドレイジングアカデミー
  2）ファンドレイジング研究所
  3）ボイムリンゲ　森の幼稚園

ドイツ海外研修で共に学んだ仲間たち

- 荒井一洋氏
  NPOねおす　理事
  北海道の各地でエコツーリズムや自然学校を
  運営、産官学民のコーディネーター
- 田中博子氏
  NGOエコプラス　事務局スタッフ
  新潟での子ども向け里山暮し体験や
  都心の子どもたちの農業体験プログラムを企画
- 鳥羽和明氏
  エコライフを楽しむ会　代表
  新潟県三条市を拠点に幅広いエコ活動を展開
  ＮＰＯ中間支援組織としての役割を担当
- 明賀美奈氏
  四国青年NGO HOPE 副理事長兼環境部長
  愛媛大学生、四国の大学生や若手社会人を
  中心に地域活性化の中間支援組織を運営

行政の取り組みについて

- 構造と役割

「連邦国家」、「州」、「地域」の構造（責任区分）が明確

「連邦国家」：法の整備、補助金の決定、目標と基準の制定
「州」　　：地域行政支援・監視、補助金の査定、人材支援
「地域」　　：地域実践活動の支援

州政府の機能が充実

- 広報と人材教育に重点

１）広報
・目標と実績の数値化（細かな分野に及ぶ）
・説明責任（アカウンタビリティ）の徹底
・市民にわかりやすい広報（図表やグラフ、写真）
・インパクトのある広報、イノベーション活用

２）人材教育
・人材支援助成制度の充実（徴兵制度→環境ボランティア制度）
・１６～２６歳の青少年に社会性を身につけさせるチャンスと仕組み
・無職者への環境関連業務の労働斡旋

コミュニケーション型行政

行政の取り組みについて

- 様々な広報ツール

ヘッセン州　パルメンガルテン植物園（１）

- １８６８年に庭園植物販売業で庭園設計士のハインリッヒ・ジースマイヤーが創設
- 広さ２６ha、約２２，０００種の植物
- 五大陸の植物を集めた温室が有名
- 四季折々の催事で市民の憩いの場

ヘッセン州　パルメンガルテン植物園（２）

ヘッセン州　パルメンガルテン植物園（３）

ヘッセン州　パルメンガルテン植物園（４）

ヘッセン州　パルメンガルテン植物園（５）

ヘッセン州　パルメンガルテン植物園
環境ボランティア研修制度　～ＦＯＪ～

ヘッセン州　パルメンガルテン植物園
ヘッセン州　環境ボランティア研修制度　～ＦｏＪ～

ヘッセン州　環境ボランティア研修制度　～ＦöＪ～

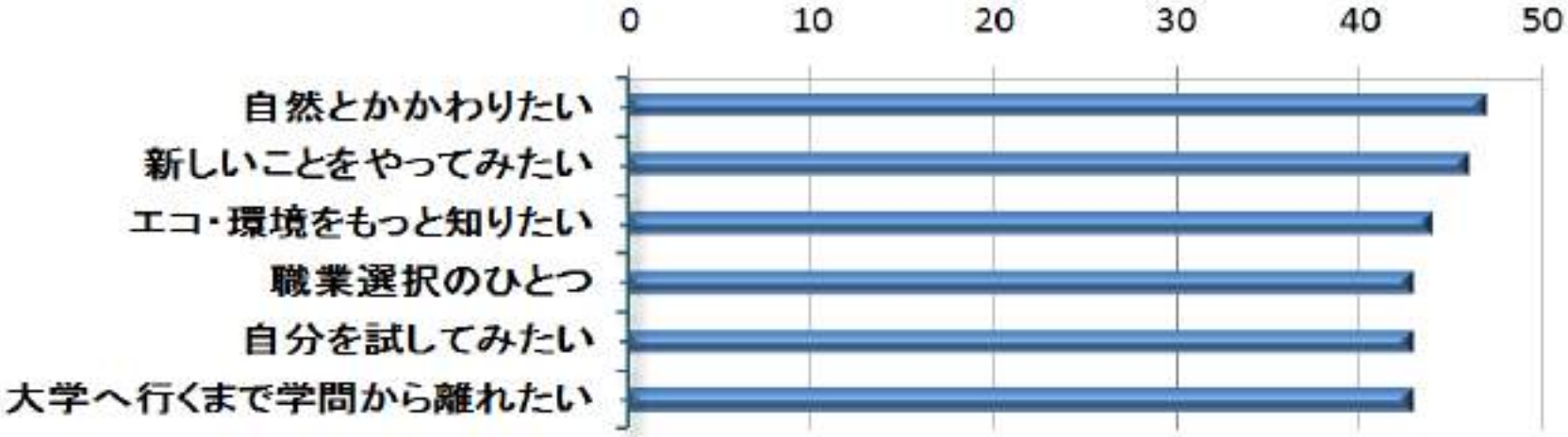
[FOJ全体像]

- 1987年設立、北ドイツ地方から広まった
- １６歳～２６歳を対象、男女問わない
- 研修期間：１年間　→　懲役制度（６カ月間）の代りとなる
- 延べ約２万５千人が受講、５０ヶ所の研修施設
- 2009～2010年：2,415名が受講
- 環境と社会性を学ばせている（高校卒業後の志願者が多い）
- ２つの柱：実技（寝食共とするのが原則）＋教育＆５回のゼミナール
- 研修生には、ひとりあたり　１５０€／月給与が支払われる
  財源　州負担：１４７€＋研修先３€
- その他：連邦政府がセミナー講師に１５３€／月負担
  研修生受け入れ施設も保険等で２３０～４１９€／月負担
- 主な研修先：農場、園芸施設、環境研究所、都市計画、農業試験場等
- 志願者と研修受け入れ先とで面接(マッチング)→双方合意後研修開始

※研修生と受け入れ先とが、WIN＆WINの関係に近い

ヘッセン州　環境ボランティア研修制度　～ＦöＪ～

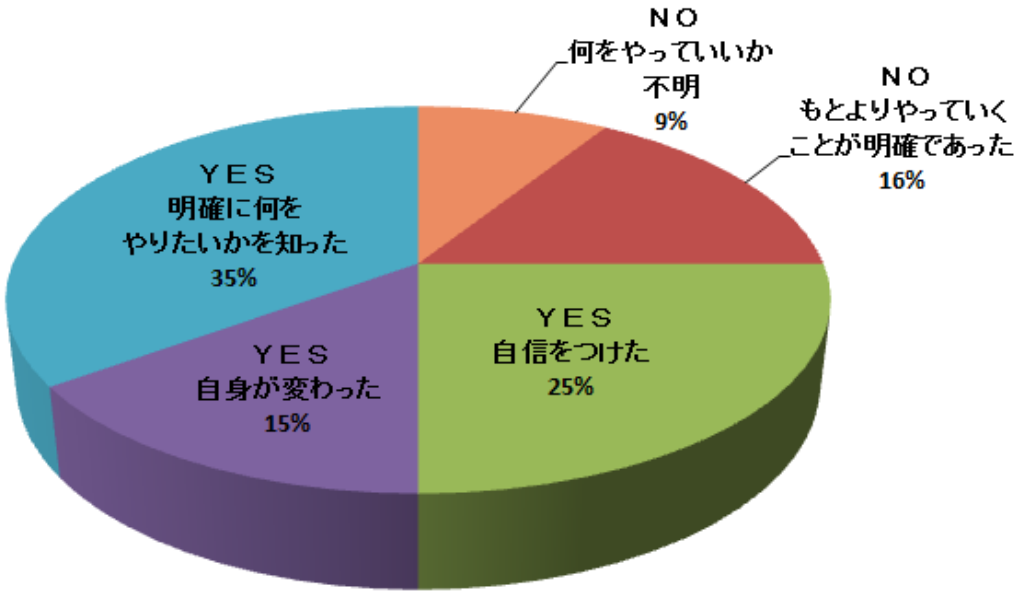
- どうしてＦＯＪを受講するのか？（複数回答可：全員５５名）



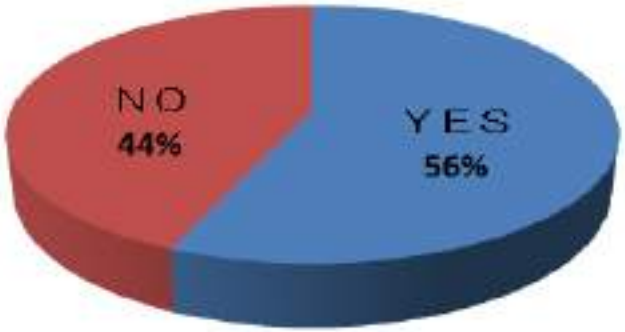
- ＦＯＪはあなたにとって役にたったか？（複数回答可：全員５１名）

ヘッセン州　環境ボランティア研修制度　～ＦöＪ～

- 職業観に影響があったか？（単一回答：全員５５名）

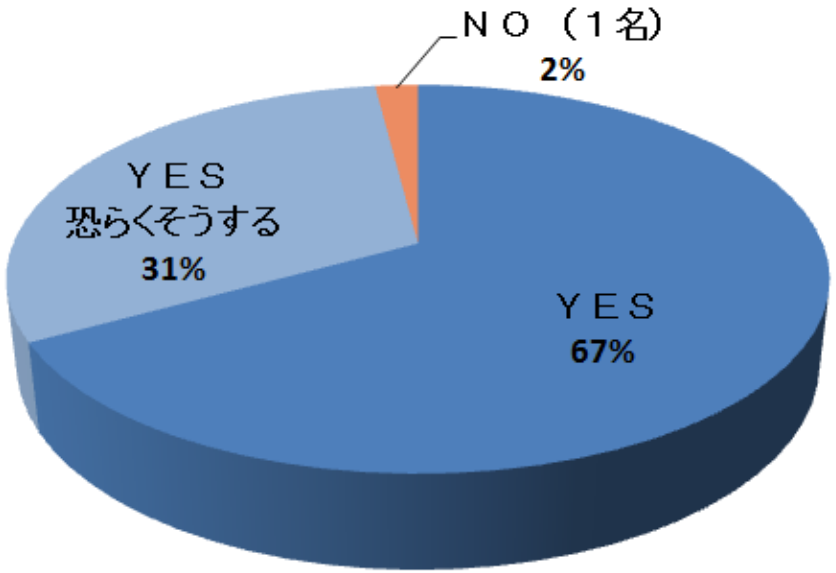


- 将来何をやるか決めているか？（単一回答：全員５５名）



ヘッセン州　環境ボランティア研修制度　～ＦöＪ～

- 今後、エコや環境に関する活動をしますか？（単一回答：全員５５名）



【課題】
※環境ボランティア研修制度を利用している者の
　割合は、高等学校卒業生の１～２％にすぎない…
　→進学せずに社会的な関わり合いを持たない若者も
　　多くいることも事実である

ヘッセン州　環境ボランティア研修制度　～ＦｏＪ～

- カタログ・案内書類

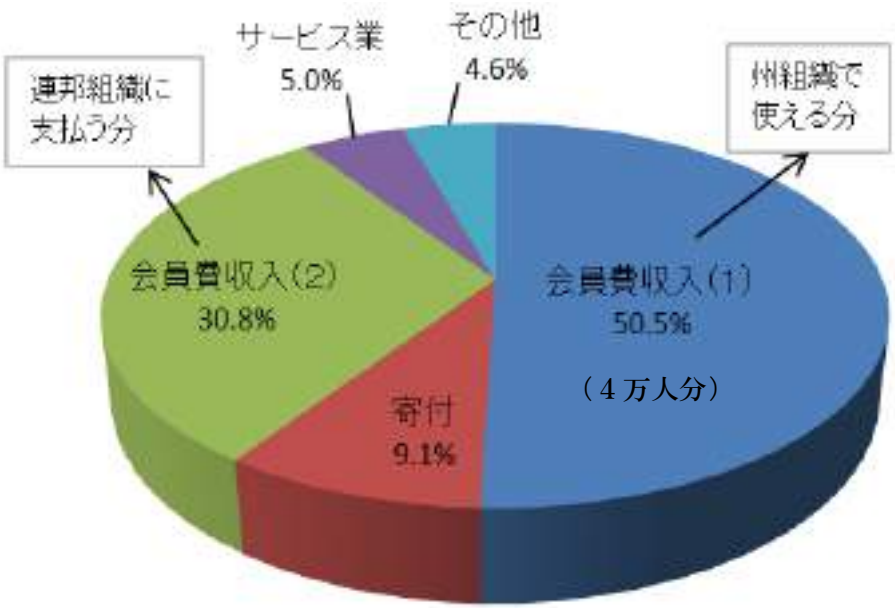
ＢＵＮＤについて

- ドイツ環境自然保護連盟
（ Bund für Umwelt und Naturschutz Deutschland ）
- 1975年 ドイツ自然・環境保護連盟として発足
２つの自然保護グループ＋原発建設反対グループにより結成
- 地域－州－連邦の組織で構成される３層構造
- 会員数：ドイツ全体で４８万人（連邦人口割合０.６％）
バーデンブルク州は８万人（州人口割合０.８％）
- 会費と寄付で成り立っているＮＰＯ事業
- 2010年～ 消費者保護団体としても連邦から認可
- 政党にはどこにも属さず、政治的な力量を保持
→環境に関する法･規制を立案の際は、ＢＵＮＤ考えを必ず
ヒアリングすることが法により定められている。
→ロビー活動（州や連邦レベルの環境大臣とコミュニケーション）
- 州や地域をはじめ、各地区拠点のBUND理事には、
弁護士、医師、生物学者、科学者、企業経営者等が存在
- 青少年の社会的自立についても支援。（ユーゲント組織）

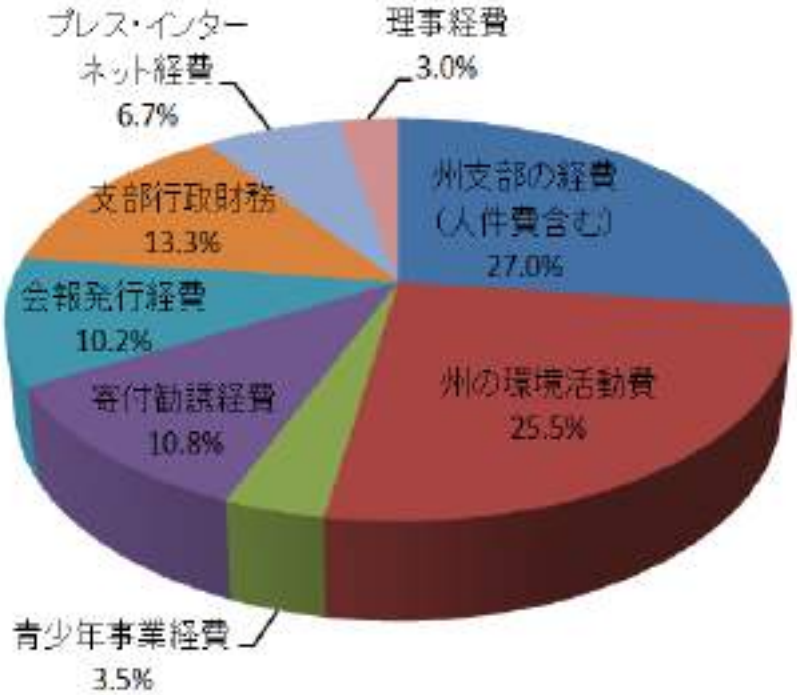
ＢＵＮＤについて

~財務会計概要（シュトゥットガルト州）~

- 収入
  （340万€≒３億８千万円）



- 支出（328万€）



※340万－328万＝12万€（≒1,350万円）黒字
※行政の補助金や企業からの助成金がないのが特徴

（2009年資料）

ＢＵＮＤについて

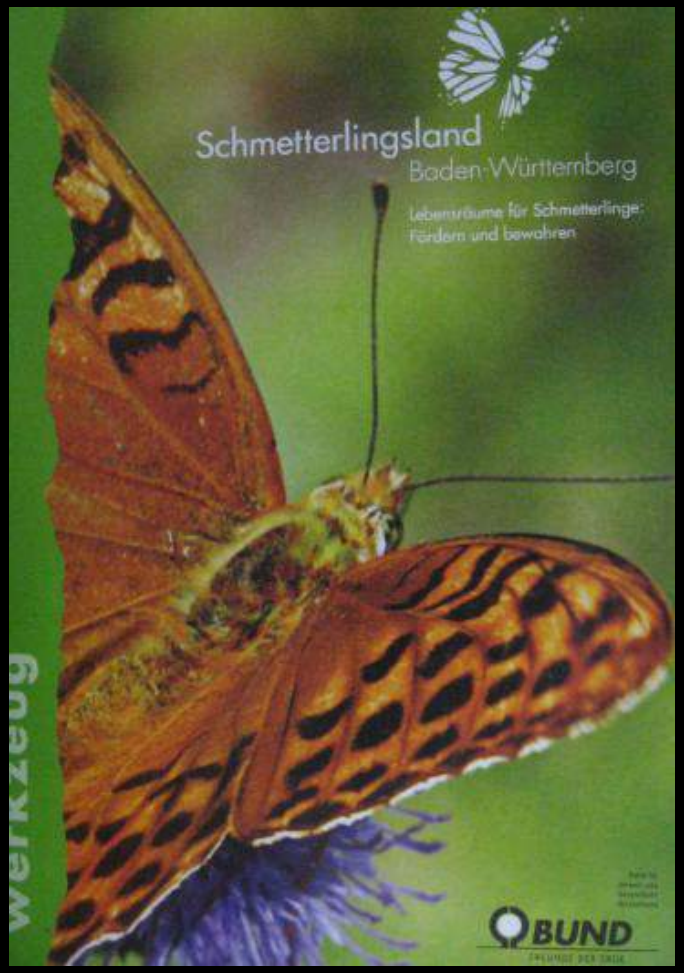
バーデンブルク州ＢＵＮＤが力を入れている活動

- シュトットガルト２１：駅新幹線乗り入れ反対
- マンハイム：火力発電所の建設反対

※シュトゥットガルトには、メルセデス、ダイムラー、ポルシェやボッシュなど
ドイツを代表する世界的な企業の本社がある

ＢＵＮＤについて

- 様々な広報ツール



ＢＵＮＤについて

- 様々な広報ツール

ＮＡＢＵについて

100年以上の歴史

- ドイツ自然保護連盟
  （Naturschutzbund Deutschland e. V.）
- 1899年　野鳥保護を主な目的として設立（ドイツ野鳥保護連盟が前身）
- 地域－州－連邦の組織で構成される３層構造
- 会員数：ドイツ全体で４５万人（連邦人口割合０.５％強）
  ラインラント・ファルツ州は３万３千人（州人口割合０.８２％）
- 行政補助金、企業助成金、会費・寄付で成立しているＮＰＯ事業
- 政党にはどこにも属せず、政治的な力量を保持
  →環境に関する法･規制を立案の際は、ＮＡＢＵの考えを
  ヒアリングすることが法により定められている。
  →ロビー活動（州や連邦レベルの環境大臣とコミュニケーション）
- 州や地域をはじめ、各地区拠点のNABU理事には、
  博士、生物学者、科学者、弁護士、医師、教師等が存在

ＢＵＮＤと似ている

- 趣味が専門家化し事業活動を運営・支援している方が多い（別生計）
- 約５千ヵ所の保護地域を管理、100ヵ所の自然保護センターを運営
- 青少年の活動もある。（ユーゲント組織）
- ミッションが明示されている。

ＮＡＢＵについて

- 使命

１．　一人ひとりが自然に対して何かをするのではなく、
みんなで手を携えて活動すること。そして一人ではできなくても、
みんなが手をとりあうことで可能になることを示すこと。

２．　次の世代に対して、生きていて良かったなと思える
自然を残していくこと。地球上の多種多様な生態系、
おいしい空気や水、健康な土地などを残し次世代に渡すこと。

- 主な活動項目

１．　すべての動植物の多様性の保全と、生息環境の保護活動。

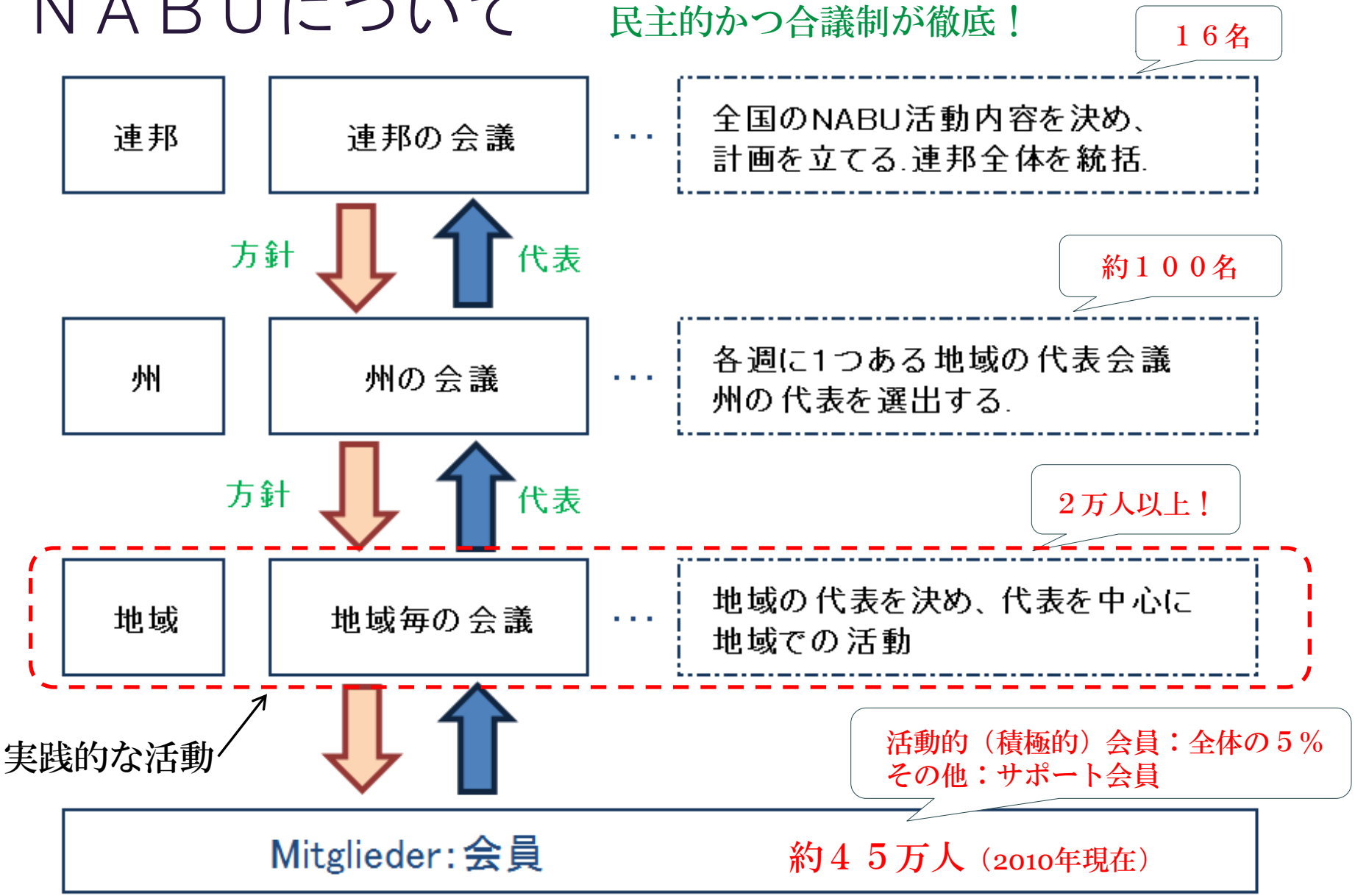
２．　各地域の開発や田畑や森林の開発に対して意見を述べ、
保護活動を実施する。
（※年間700～1,000件の開発プロジェクトに関連）

３．　政治家とコンタクトして、ロビー活動を行う。

４．　環境教育。一般市民への情報提供や、
実際のフィールドワークを行なう。

ＮＡＢＵについて

民主的かつ合議制が徹底！

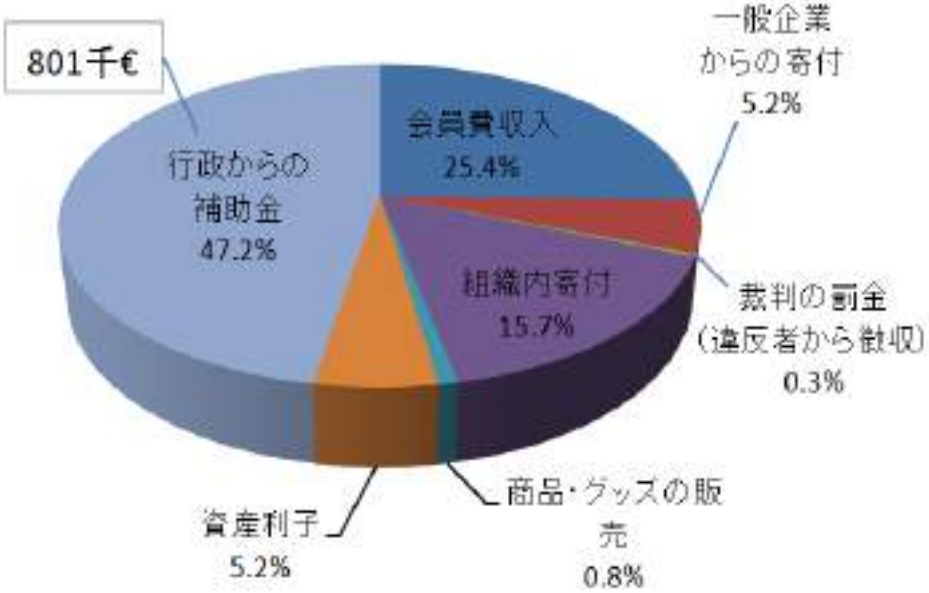


（図はセブンーイレブン記念財団WEBより引用編集）

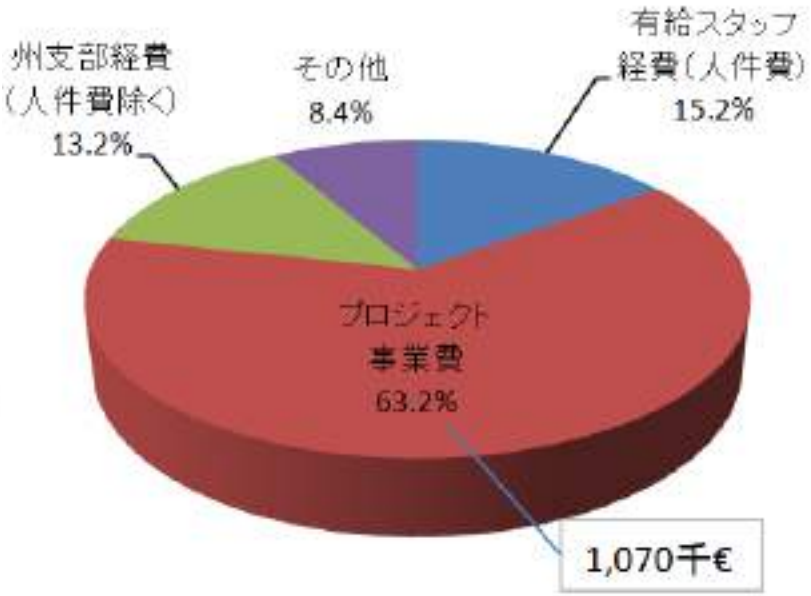
ＮＡＢＵについて

~財務会計概要（ラインランド・ファルツ州）~

- 収入
（１,６９５千€≒１億９千万円）



- 支出
（１,６９３千€）



（2008年資料）

※プロジェクト事業自体は赤字！　1,070千－801千＝269千€（≒３千万円）
※自然保護を使命と考え、会費や寄付からその資金を補って運営している。

ＮＡＢＵについて

- カタログ類

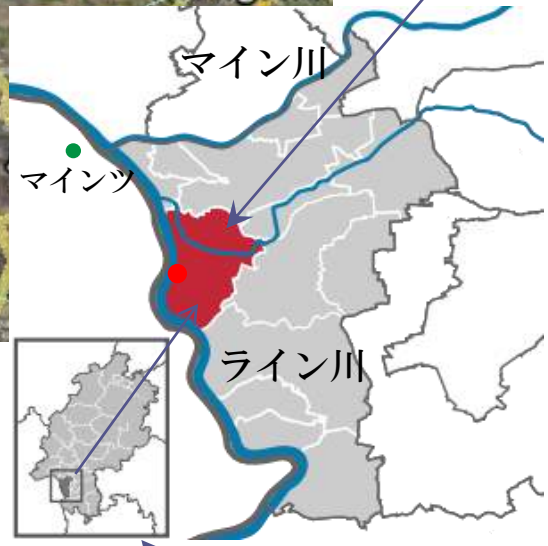
ＮＡＢＵについて

- カタログ類

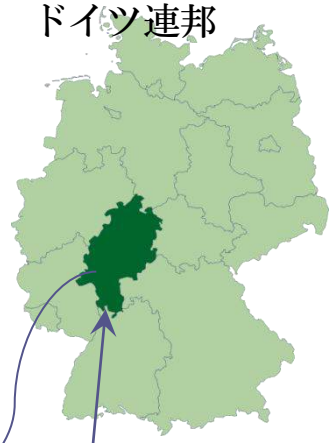
ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　トゥレブール教育施設～

ＡＵＥ（オウエ）
＝河川や湖沼周辺の水辺

グロースゲラウ地区
トゥレブール地域



ドイツ連邦

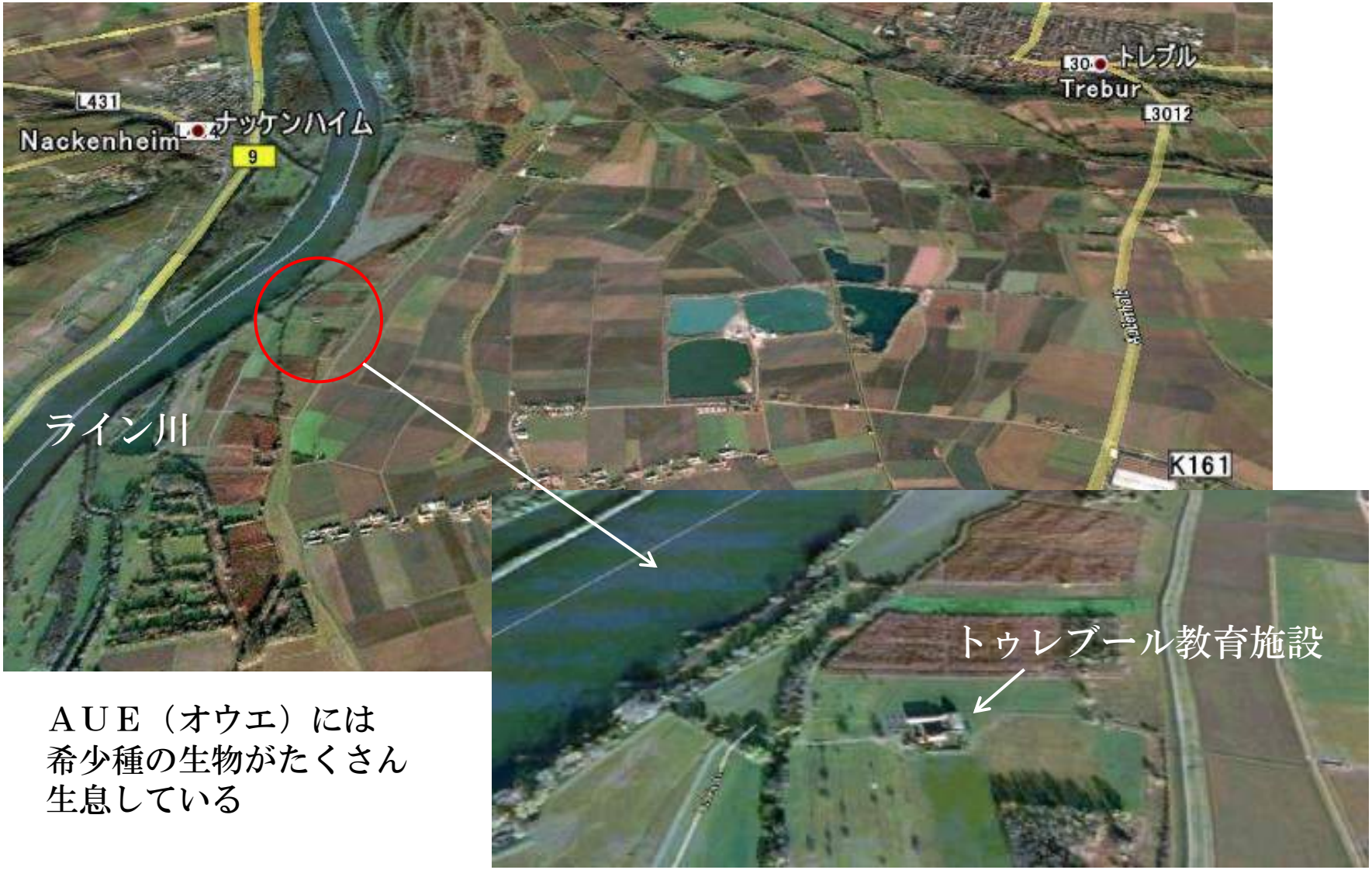


ヘッセン州
トゥレブール教育施設

ヘッセン州

（図はWikipedia及びGoogleEarthから引用編集）

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　トゥレブール教育施設～



ＡＵＥ（オウエ）には
希少種の生物がたくさん
生息している

（図はGoogleEarthから引用編集）

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　トゥレブール教育施設～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　トゥレブール教育施設～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　トゥレブール教育施設～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　トゥレブール教育施設～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　トゥレブール教育施設～

ＮＡＢＵの取り組みついて
～ヘッセン州　トゥレブール教育施設～

■感銘・共感を受けた点

- ＡＵＥに生息する多様な生物を護り、観察し次世代に伝える教育を、四季を通じてフィールドで実践している.（現場主義）
- 既存の歴史的な建造物（18世紀の建物）を保全・改装し、自然幼稚園や住居として活用.（展示施設やイベント施設としない）
- ありのままの自然な形で周辺地域全体を保全.　タイムスリップ感（媚びない.　ナショナルトラスト成功事例）
- 地域・地区の歴史的背景を関係者達が理解し、土地の短所を長所で補って連携をとっている.（少しでも負荷のかからない配慮）
- 周辺一帯の水域地区の自然保全活動を、ＮＡＢＵをはじめとする複数のＮＰＯや行政や地元企業の有志で支えている.（協働）
- 関係者ひとりひとりの地域に対する愛情はただものではない.（地域愛）
- 出資協力している主たる地元企業は、グロースゲラウ地区一番のステークフォルダーである電気会社（高圧線配慮、コウノトリの巣保護）（責任）

※異なる団体が上手に連携しあえる秘訣

→「地域愛(土着)」、「情熱」、「あせらず時間をかけて連携」

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　自然保護センター（１）～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　自然保護センター（２）～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　自然保護センター（３）～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　自然保護センター（４）～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　自然保護センター（５）～

ＮＡＢＵの取り組みついて　～ヘッセン州　自然保護センター（６）～

民間組織の取り組み ～森のようちえん（1）～

民間組織の取り組み ～森のようちえん（２）～

民間組織の取り組み ～森のようちえん（３）～

民間組織の取り組み ～森のようちえん（４）～

民間組織の取り組み ～森のようちえん（５）～

- 幼稚園のミュンヘ園長の教育に対する考え方
  →『自然を愛する気持ちを次世代につなげることが使命』

  ※印象的であった点
  - 場所は営林署が無償で提供
  - ２０名以上は入園させない（園長、保育士２名＋実習生１名＋FOJ１名）
  - 授業開始後のスタッフとの連携やチームワーク
  - 欠席した園児のことを他の園児に印象づける会話手法
  - 園児達が遊んでいる間の我々への対応と園児たちへの気配り
  - 寒い中での歩きながらの現場説明（我々に対する寒さへの気配り）
  - 毎日変化する森の自然の中で着々と変化する周辺状況の把握
  - 信念とする環境教育を展開する力量と技量

民間組織の取り組み ～森のようちえん（６）～

- カタログ類

街中の様子 ～Mainz～

（図はGoogleから引用編集）

街中の様子 ～パークアンドライド（１）～

街中の様子 ～パークアンドライド（２）～

街中の様子 ～マインツ駅舎～

街中の様子 ～パークアンドライド～

街中の様子 ～特急車両乗り入れ＆ノン改札～

Mainz

Stuttgart

Stuttgart

Stuttgart

街中の様子 ～ゴミの分別～

街中の様子 ～ゴミ収集車～

Frankfurt am Main

街中の様子 ～有機食料専門ブランドストア～

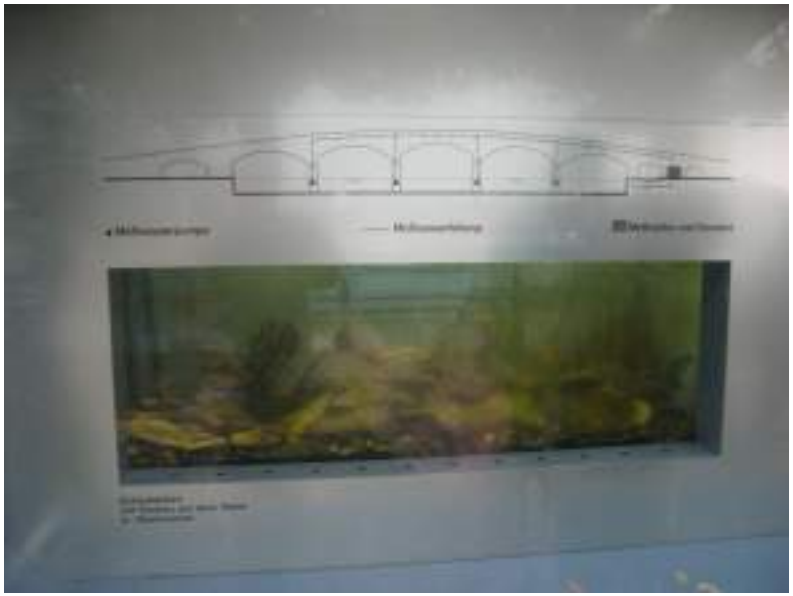
生卵用容器

街中の様子 ～ペットボトルデポジット機＆環境テスト雑誌～

有機栽培認証マーク

街中の様子 ～環境案内所～

街中の様子 ～ライン川水質リアルタイム表示～



街中の様子 ～朝市（１）～

街中の様子 ～朝市（２）～

街中の様子 ～店舗（１）～

Stuttgart

街中の様子 ～店舗（２）～

街中の様子 ～面白サイン＆ショウウィンドゥ～

Frankfurt am Main

Stuttgart

街中の様子 ～面白サイン＆ショウウィンドゥ～

街中の様子 ～旧市街地（１）～

街中の様子 ～旧市街地（３）～

街中の様子 ～旧市街地（２）～

街中の様子 ～建築施工現場（１）～

Frankfurt am Main

Frankfurt am Main

Stuttgart

Frankfurt am Main

街中の様子 ～建築施工現場（２）

街中の様子 ～ライン川～

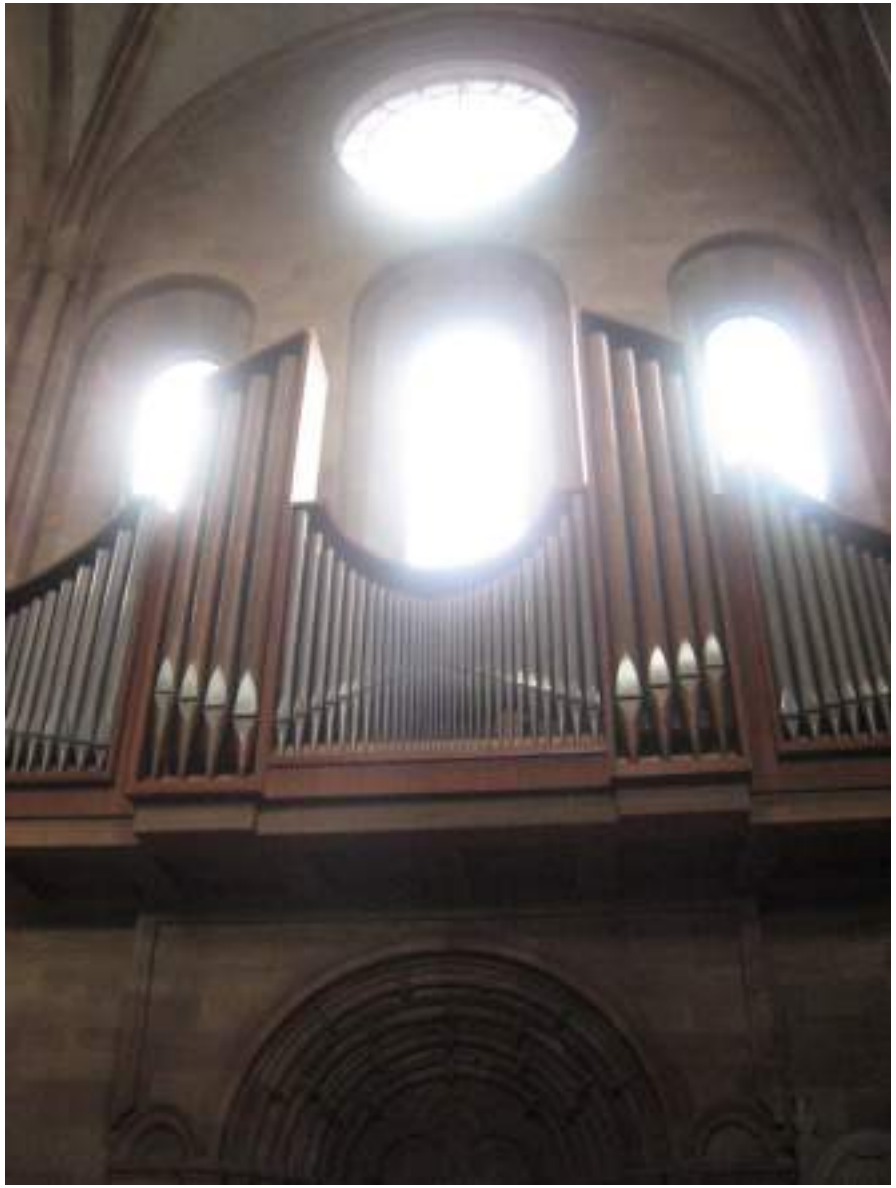
街中の様子 ～グーテンベルグ史跡～

街中の様子 ～マインツ大聖堂（１）～

街中の様子 ～マインツ大聖堂（２）～

街中の様子 ～マインツ大聖堂（３）～

街中の様子 ～マインツ大聖堂（４）～



街中の様子 ～マインツ大聖堂（５）～

街中の様子 ～マインツ大聖堂（５）～

街中の様子 ～ステファン教会（１）～

街中の様子 ～ステファン教会（２）～

街中の様子 ～ステファン教会（３）～

街中の様子 ～ステファン教会（３）～

まとめ（1）　～日本における環境保全への取り組みへのヒント～

【日本企業における環境保全への取り組みと課題】

- 地域単位を重視した環境保全活動への取り組みの必要性
  - ｉ）他業種や競合他社の枠を超えた地域単位での環境保全活動への連携された取り組みの必要性
    （もちろん、行政や市民との『協働』による展開であること）
  - ii）シンクタンク型のコンサルティングや支援ではなく、ドゥタンク型の能動的、結果創出型の保全活動の必要性
  - iii）企業内外の専門分野の人財活用とアライアンス(連携)の必要性
- 地域に密着した現場発信の社会貢献活動
  - ｉ）地域の事業所、営業所＝アンテナショップの発想
  - ii）各地域で独立した財務会計枠　→　小規模でも自由に使える資金確保
  - iii）地域特性に適合した密着型の社会貢献活動で、社会的信頼の獲得
- 持続的なＮＰＯや任意団体への支援強化と社員参加型CSR活動の実践
  - ｉ）一元的、自社広報のみのイベント的なＣＳＲ活動は形骸的、地道な日常的かつ継続的な活動の必要性　→　責任と信頼を生む
  - ii）従業員が自ら考え行動する環境保全活動が今後期待される
  - iii）特に日本の大企業は“草の根的な環境保全活動”を支援していくべき
  - iv）若手人材教育には地域との社会性を学ばせるべき　→　無縁社会対策

DEXTE－K

まとめ（2）　～日本における環境保全への取り組みへのヒント～

【地域行政における環境保全への取り組みと課題】

- 地域の問題点と将来の目標を客観的に把握する必要性
  - ｉ）現在起きている事象について客観的に様々な観点から数値でとらえ分析することにより、何が起きているのかを知ることが大前提
  - ii）循環化社会の実現にむけて、将来的どのようにあるべきであるかを具体的にイメージし、各分野やカテゴリー別に中長期の目標値を定め、市民参加型の問題解決となる様に、広報に努めていく必要性　→　説明責任
- 魅力ある地域の資源活用と広報の重要性
  - ｉ）地域の庁舎や出張所、公的な施設＝アンテナショップの発想
  - ii）地域で活躍する地元企業や大企業の事業所・営業所をステークフォルダーとして位置付けることの重要性
  - iii）地元の有識者や善良な市民も有効な資源、ネットワーク化が鍵
  - iv）わかりやすく魅力ある広報や子ども達を対象とした環境保全の教育ツール作成の必要性
- 複数のＮＰＯや任意団体との連携の必要性
  - ｉ）環境保全は関係するステークフォルダーと共に展開すべき
    行政は複数のNPOや任意団体を束ね、コーディネート＆支援をしていく必要性
  - ii）行政の職員が自ら環境保全活動に参加し、市民を牽引するパワーが期待される

DEXTE－K

まとめ（3）　～日本における環境保全への取り組みへのヒント～

【NPOにおける環境保全への取り組みと課題】

- 自身の事業活動の財務・会計について客観的に把握する必要性
  - ｉ）資金調達強化の必要性（日本のＮＰＯの最大の弱点）
    - →収入は、行政や他の財団や企業からの助成金に頼り切っていないか？
    - →自立するための努力を怠っていないか？
  - ii）事業活動の財務・会計報告に透明性の必要性
    - →有効な資金活用がされているか？公明正大な会計報告となっているか？
- 環境保全活動の費用対効果の客観的評価の必要性
  - ｉ）イベント的な活動からの脱皮の必要性
    - →活動がただの参加者動員になっていないか？
  - ii）環境保全に対する評価を客観的に行えるような指標をもつ必要性
    - →公益の確保がされているかの客観的・技術的な評価を継続的にしているか？
- 複数のＮＰＯや任意団体との連携の必要性
  - ｉ）地域でのネットワーク化の必要性
    - →地域の市民や行政、企業をステークフォルダーとしてとらえているか？
    - →環境保全は単独の組織や団体で取り組みでは解決しない認識が重要
    - →自身の組織で解決できない問題は、他の専門的な組織・団体に申し送りをしているか？　ＮＰＯを中心としたコミュニケーションの必要性
  - ii）次世代につなぐ人材教育を地域で積極的に実施する必要性
    - →次世代を担う人材に境界線はない認識が必要

DEXTE－K

まとめ（4）　～日本における環境保全への取り組みへのヒント～
【市民における環境保全への取り組みと課題】

- 自身の地域を想う気持ち（地域愛）の重要性の認識
  - ｉ）自身の住む地域の魅力をまず知ることが大事　→　気づき≒築き
  - ⅱ）生活レベルのエコ活動から市民活動へ一歩踏み出す勇気が大事
  - ⅲ）環境保全の王道は、自身の住む地域に対して日常的かつ持続的に行っていくことである認識が重要　→　イベントやツアーとは異なる
- 社会人として地域社会に関わることの必要性
  - ｉ）所属する社会事業や組織・団体の活動以外に、地域貢献できる場を持つことに対する寛大な共通認識が必要
  - ⅱ）地域コミュニケーションの活性化
    - →　防災・減災街づくりの実現
    - →　無縁社会からの脱皮
- 次世代に地域力を繋げていく認識の必要性
  - ｉ）地域の自然環境をより良くして次世代につないでいくのは市民の役割であることの自覚が重要
  - ⅱ）自身の世代だけを視野に入れないこと
  - ⅲ）若い人材や青少年に対して社会性を学ばせる環境の必要性

DEXTE－K

まとめと提案

【葛西臨海公園・海浜公園における環境保全への取り組みへの具体的提案】

協働！

- 次世代に向けての環境保全活動を関係する市民ですすめよう！

日本ユネスコ社会連盟の提唱する「未来遺産活動」への登録を

地域行政、地域ＮＰＯ、地域市民、地域企業みんなでおこない地域活性化！

→　干潟がラムサール条約に登録される様に応援

未来遺産運動　～未来に伝えたい地域の文化・自然遺産～

もらって
うれしい！

- 環境保全ボランティア活動参加者への『感謝の証明書』の発行

労働力提供をしていただいた市民の方々のお礼の証をプレミアム化

→　江戸川区伝統工芸を用いた素材で「感謝の証明書」を発行

（公園内で環境保全活動に参加された市民の方々が対象）

- 環境保全ボランティア活動の労働力対価を地域貨幣へ交換可能に！

→　公園内での環境保全ボランティア活動は、

どの活動も１時間半～２時間は要している

→　労働対価を公園内で使用できる「地域通貨」（700円程度）の発行に！

700円程度だと…　水族園入場、観覧車に乗車、軽い食事ができる！

ご清聴ありがとうございました…

おわり